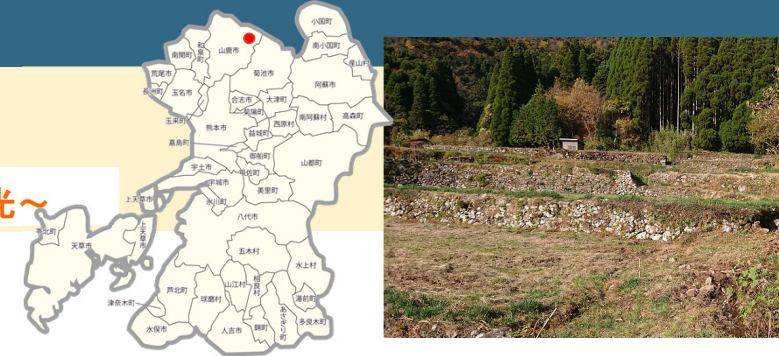


# 内田地区 (山鹿市)

内田地区を未来へつなぐバトンづくり ~魅力を伝える 人・もの・観光~



## ビジョンの概要

### 地区の課題

- ・ 少子高齢化、担い手不足が進行している。
- ・ 条件の悪い所から耕作放棄地が増加している。
- ・ 機械化が困難、急傾斜地、施設の老朽化、水不足等農業生産基盤に課題を抱えている。・ 鳥獣被害が増加している。
- ・ 公共交通廃止、店舗閉店等で生活しにくくなった。
- ・ 地域コミュニティが衰退して、人々のつながりが希薄になってきている。

## ビジョン策定のプロセス

「活力あるふるさとを引き継ぎたい」という思い

## ビジョン

### 地区の目指す姿

#### (1) 所得の確保

- ① 栗の優良品種（銀寄・美玖里）への新植・改植を行う。
- ② 米のブランド化を目指し食味向上のための栽培管理等を行う。
- ③ 新たな加工品等の開発を行う

#### (2) 担い手の育成

- ① 将来の農業・農村を守るため、地域営農組織設立（4～5年後目標）を目指す。

#### (3) 基盤整備の実施

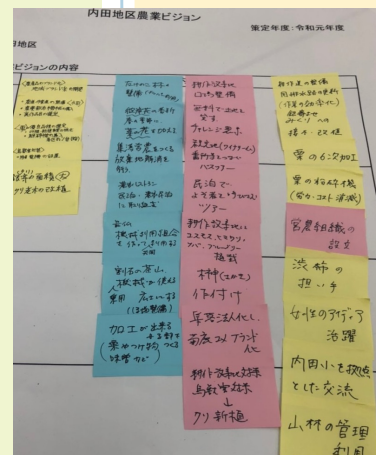
- ① 作業道及び用排水路の更新や石積補修、湧水処理等を行う。

#### (4) 農業と観光のタイアップ

- ① 農家レストランや農家民泊等に取り組む。
- ② 観光地（ワイナリー、番所の棚田等）を巡るツアー等を行い、交流人口増加を図る。

### 成果目標

- ・ 栗の新植・改植面積を2ha以上増加させる。
- ・ 営農組合等を1組織設立する。
- ・ 農業体験等を1回以上実施する。



## ワークショップで課題を煮詰める

各区からの情報をもとに現状と課題についてのワークショップを実施し、課題を煮詰めていった。

## 将来に向けた具体的な方策を検討

課題が見えてきた段階で、将来へ向けた具体的な取組みや成果目標を検討。事業要望箇所の現地調査を行い、事業ビジョン内容の最終確認から合意形成につなげていった。

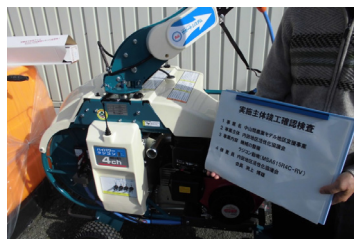
## 恵まれた資源を生かせる農業を

特産のくり、種もみ用の優良米が農業資源としてある。アイラトビカズラ、相良観音、矢谷溪谷、番所の棚田、菊鹿ワイナリーなどの観光資源も有する。未来へバトンタッチできるよう工夫を重ねる。

## 具体的取り組み

### (1) 所得の確保

- くりの優良品種（銀寄・美玖里）への新植・改植  
→ 令和2年度くりの新植・改植面積は15haで、今後も継続していく。
- 米のブランド化を目指して食味向上のための栽培管理  
→ 「内田米」をブランド化し、付加価値の高い米として売り出すことに取り組んでいる。
- 新たな加工品等の開発  
→ 矢谷地区の女性グループが地元農産品でジャムを開発した。



### (2) 担い手の育成

- 将来の農業・農村を守るため地域営農組織設立を目指す  
→ 合意形成・農地集積・経営計画作成等の支援を開始した。  
野菜栽培で若手後継者が高所得を上げている例がある。

### (3) 基盤整備の実施

- 作業道及び用排水路の更新や石積補修、湧水処理等を行う  
→ 番所の棚田を対象に着手した。



### (4) 農業と観光のタイアップ

- 農家レストランや農家民泊に取り組む  
→ コロナ禍で事業開始に至っていない。
- 観光地（菊鹿ワイナリー、番所の棚田等）を巡るツアー等を行い、交流人口増加を図る  
→ 深瀬地区では古民家を改造して農業体験者向けの宿泊施設として活用。都市部から小学生と保護者ら数十人が利用していた。現在は休止しているが、活動を再開したい。  
菊鹿ワイナリーとのコラボレーションで、地区で開発した食材や野菜を販売したい。

## 成果

### 成果目標

- ・ 令和2年度の栗の新植・改植面積を2ha以上増加させる
- ・ 営農組合等を1組織設立する

### 結果

- ・ 栗の新植・改植面積⇒15ha
- ・ 内野地区（内田地区内の集落）で地域営農法人設立に向けた協議が開始され、令和4年1月法人登記が完了した

### 今後に向けて

- ① 地域農業の中核となる営農組織の組織化を急ぐ
- ② コロナ禍の影響から対象を絞り込んで事業を進める